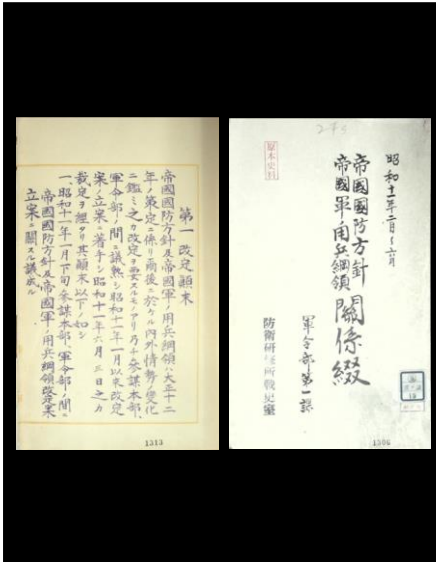


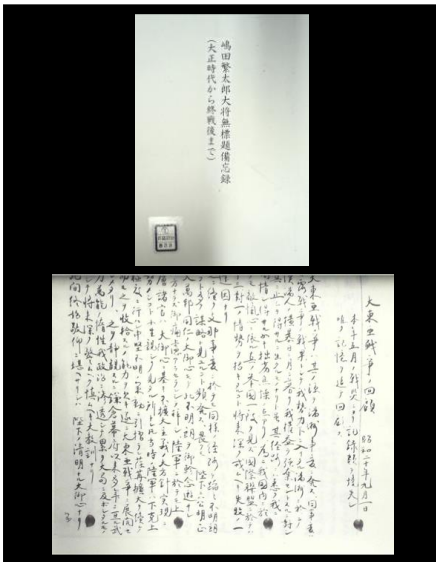
平成 29 年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 しまだ しげたろう  
嶋田 繁太郎 1883～1976年 》  
—東京出身の海軍大将—



帝国国防方針 帝国軍ノ用兵綱領関係綴 (登録番号：⑨霞ヶ関-15)

嶋田繁太郎大将は海兵 32 期 (明治 37 年 11 月卒) で、昭和 7 年 6 月軍令部第 3 班長、次いで第 1 班長、第 1 部長を経て、昭和 10 年 12 月から昭和 12 年 11 月まで軍令部次長に就任します。この間日本は、昭和 8 年 3 月国際連盟脱退、昭和 9 年 12 月ワシントン海軍軍縮条約の破棄を通告、昭和 11 年 1 月第 2 次ロンドン海軍軍縮会議も脱退し、翌 12 年 1 月より「無条約時代」に突入します。この史料は「帝国国防方針 帝国軍ノ用兵綱領関係綴」で、嶋田軍令部次長時代の帝国国防方針第 3 次改定 (昭和 11 年 6 月 3 日) に関する陸海軍共通記録綴りです。「我ト衝突ノ可能性大ニシテ且強大ナル国力殊ニ武備ヲ有スル米國、露國ヲ目標トシ併セテ支那、英國ニ備フ」とする第 3 次改定の帝国国防方針は、大東亜戦争に繋がった最後のもので、同戦争に大きな影響を及ぼしました。



大東亜戦争ノ回顧 (登録番号：①日誌回想-833)

昭和 16 年 10 月東條内閣の海軍大臣に就任した嶋田は、昭和 19 年 2 月軍令部総長を兼任しますが、東條内閣崩壊とともに同年 7 月海軍大臣を、8 月軍令部総長も辞任し、予備役で終戦を迎えます。この史料は、「嶋田繁太郎大将無標題備忘録」に綴られている「大東亜戦争ノ回顧」(昭和 20 年 9 月 1 日) です。この中で嶋田は、「昭和十六年十月ニ於ル日米両國關係ハ一方ノ大讓歩ナキ限り打解 (ママ) ノ途ナク (中略) 小生ハ兼テノ所懐上何トカ開戦ヲ避ルノ方途ナキカヲ苦慮シタルモ時機ハ既ニ急迫シアリ 十一月下旬『ハル・ノート』ヲ受ケ百計竭キテ開戦ノ外ニ途ナク」、また「布哇作戦ニ好適ナルハ十二月初旬ヲ最後トシ (中略) 成算少ナキ時機ニ入ル為至急決心ヲ促進セラルハニ至レリ」とするなど、開戦を決意した理由等が記されています (他に「大東亜戦争ニ至ル回顧」①日誌回想-195)。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課  
専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)  
外線：03-3260-3011  
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：www.nids.mod.go.jp